

令和四年十一月 冠沓句

集句 三十三句

東大阪 枝廣 忠夫

いわし雲錦秋の峰映えわたる

ともかくもわれよしの心捨つるべき

ともかくもまことに勝るものはなし

三島 神門 明子

いわし雲空に拡がり大芸術

われよしの心大河に洗われて

登場の大宣伝使のまねをする

ともかくも目標見据へひた歩む

三島 谷内いづみ

いわし雲秋のおとづれ待ちに待つ

ともかくも初心に帰り靴揃え

われよしの個々の行い省みる

幼孫親のことばをまねをする

枚方 小笹 順子

いわし雲夕暮れ空に泳ぎおり

ともかくも無事に年末迎へたし

われよしの心無くしてみろくの世

尊敬す上司の行いまねをする

城東 橋本 早苗

ともかくも吾子らと祈る七五三

いわし雲掴めるほどに伸びよ孫

われよしの日々の行い省みる

亡き母の美容師の技まねをする

三島 足立しげ子

ともかくも朝夕祈り幸せに

われよしも広い心で日をすごす

好きよことは神に祈りてまねをする

三島 矢野 義男

いわし雲一面に咲く青空に

いわし雲大漁といふ世のならひ

ともかくも考へもなしに拝読よ

ともかくも何もおもはずかなながら

われよしの気持ちはすてよ人の為

考へず良き事なればまねをする

貝塚 伊藤 香

いわし雲大歓声がこだまする

ともかくも信じた道を一步ずつ

われよしの心がまねく大三災

幼児は良きも悪きもまねをする

貝塚 伊藤 香

天位

われよしの心がまねく大三災